

# 桑野塾+

Eisenstein Cineclub Japan  
http://deracine.fool.jp/kuwanojuku/

桑野塾 検索

大学などの研究者に限らず、興味を持って研究していることを自由に発表しあう「広場」です。  
どなたでもご参加いただけます。  
それぞれの興味が少しずつ重なり合うことで、新たな知見を見いだそうという場です。

## 第60回

2020年  
1月25日(土)  
15:00 ~ 18:00

### 早稲田大学 戸山キャンパス31号館 01号室

★ どなたでもご参加いただけます。会場に直接お越しください。  
☆ 終了後、近くの居酒屋で懇親会を開催します。(飲食費は別途)  
※予約の都合上、懇親会参加をご希望の方はなるべく事前にご連絡いただけると助かります。  
※報告者・タイトルは変更の可能性もあります。ご了承ください。

参加無料

共催：エイゼンシュテイン・シネクラブ



↑ いつもと違う教室です!

## ラジスラフ・ストナル(1897-1976)のカタログデザイン論とアヴァンギャルド

報告者：大平 陽一



ラジスラフ・ストナル(1897-1976)

戦中戦後のアメリカで商業デザイナーとして働いたストナルは、今では情報デザインの先駆者と見なされているが、こうした評価は比較的最近のことであり、2002年に学会が催された際、ヤコブソンやワーマンは「この分野が60-70年代にまで遡る」と指摘しつつも、ストナルには言及しなかった。

一方2016年に刊行された『デジタルデザインの理論』には、1961年に自費出版された『行動するビジュアルデザイン』の一節が先駆的業績として取められているが、実は同書でストナルが力説しているのは、自身のデザインのルーツが戦間期のアヴァンギャルド芸術にあるという事実であった。

本報告では、ストナルのアメリカ時代の仕事をチェコ時代の仕事と結びつけ、さらにストナルのデザインへの戦間期アヴァンギャルドの影響について根拠薄弱な推測を含めて語りたい。

●大平 陽一(おおひら よういち)

天理大学国際学部教授。戦間期チェコの文化に関心をもっていますが、研究者というよりはチェコ・アヴァンギャルドの理論家カレル・タイゲがデザインした本や雑誌の収集家です。

## 映像で見るロシア・アヴァンギャルド

報告者：井上 徹

ロシア・アヴァンギャルドといったとき、現在も残る絵画やポスター、絵本などは「見ればわかる」で、その重要性は一目瞭然です。

一方、重要な一部である演劇は、文字や舞台装置の写真などの資料がほとんどなので、映像に依拠した研究は、ほぼありません。しかし、最近は映像アーカイブのデジタル化で、思いがけない映像資料がいろいろと出てきています。映画におけるロシア・アヴァンギャルドについての見方も、映画史の断片的つぎはぎ状態を、そろそろ脱する時かもしれません。

そこで、映像で見るロシア・アヴァンギャルドについて研究で最低限押さえておきたいことを整理したいと思います。

●井上 徹(いのうえ とおる)

1965年東京生まれ。エイゼンシュテイン・シネクラブ代表。映画史・ユーラシア文化研究者。「ロシア・アニメ映画祭2000」「ロシア・ソビエト映画祭」など、さまざまな上映の企画・運営にたずさわる。著書に「ロシア・アニメ」(東洋書店)。共訳書に「エイゼンシュテイン全集」第9巻(キネマ旬報社)ほか。



映画「幸福」



映画「僕のおばあさん」



「冬宮襲撃」

●問合せ・申込み：大島幹雄(おおしま・みきお) E-mail: izj00257@nifty.com / 電話：090-2207-8185